

へぎし……

(きしむ床の音)

リリウ

「あは……えへ、はあー♪

いっぱい、出して……貰っちゃいました、えへへ♪

貴方の罪……懺悔を、私の体でちゃんと、受け止められましたよね？

ふふふ♪」

へぎし……くちゅ

(きしむ床の音、触って濡れ具合を確かめる音)

リリウ

「あんっ♪ ほら、見てください♪

こんなに、私のココ。貴方を受け止めた女の子場所……おまんこ♪

貴方の懺悔をいっぱい受け止めたって、白くてどろどろの貴方の罪でぐちゅぐちゅになってます♪

えへ♪ こうして、ちよっと広げてみるだけで……んっ♪

ふふ……とろおーって、貴方の罪、零れちゃいそうです……んうっ♪」

リリウ

「ふうー……んんっ♪ ご満足、頂けましたか？

貴方がこんなにも出して下さる程、私に懺悔をして良かったと思って下さってるなら、とても嬉しいのですけれど……」

リリウ

「……もし、後悔をしていらっしゃるようならば、申し訳ありません。

私ばかりが、嬉しくなっているだけなのかもしれません……あはは。

でも、私は……貴方に懺悔をシて頂けて、すぐく……本当に、感謝していますよ？

自分勝手に、申し訳ありませんが……えへへ」

リリウ

「私は、皆に見習いだから懺悔の相手はまだ早いと……せがんでもずっとダメだと言われてきました。

どれだけこうして誰かの罪を……辛さを、受け止める事をしたいと望んでも。認めて貰えないやるせなさ、ずっと胸の内にあつたので。

……貴方のお陰です。

今日、貴方が私を選んでくださって……懺悔が出来て、とても……誇らしい気持ちでいっぱいなんです♪」

リリウ

「ですから、懺悔をして罪の気持ちを軽くすべき貴方よりも、私の気持ちが軽くなってしまうというのは大変あべこべな話ではあるのですが。

その……はい、感謝しております。

貴方と、こうして一夜を共に出来て……私、本当に嬉しいんです！」

へしゆる……」

（体を動かす衣擦れの音）

リリウ

「これで、私も懺悔を経験した訳ですから、今までダメと言った神父様やシスター達を説得できます！
今後は、私も一人でも多くの方の迷い、悩み、苦しみを、懺悔として受け止めてみせますっ！」

へしゆる……」

（リリウの言葉に、思わず体が動いてしまう音）

リリウ

「って、あれ？ ……あ、あの、どうかされましたか？

お顔が陰しくなられたような……何か、気に障る事を言ってしまったか？

あう……ご気分を害されてしまったのなら、申し訳ありません。

ああ！ そんな困ったような顔をされなくて下さい！

すみません、謝りたいのですけれど……何が気に障ったのかが分からなくて……。

えっと、ど、どうしたら宜しいでしょうか！？」

へ……ぱし」

（手を握る音）

リリウ

「はえ？ ど、どうされたのですか？

突然、手など握られて……え？」

リリウ

「あっ……え？ あの、その……あう。

……私が、他の男性の方と、懺悔をするのが……気に、なられたんです、か？」

リリウ

「そんな事言われても、困って……しまいます。

私、シスターですので……皆さんの懺悔を聞くのは、私の望みでもありますし。

お気持ちは嬉しい……嬉しいんで、しょうか、私は？ ……あう」

へしゆる……」

（再び手を握る音）

リリウ

「……うう。

そんなに、何度も手を……握らないで、下さい。

こんなに求めて……気に入って頂けているのは、その……本心から、嬉しくはあるんです。

あるんですけど……む、う」

へしゆる……ぎゅ

（体を動かす音）

リリウ

「……自分で言うのはおこがましいとは思いますが。

多分、今私は……嫉妬を、して……頂けているんですよ、ね？

……あう。

嫉妬も、神の教えに従うのであれば大きな罪の1つなのですが……何故でしょう。

どうしてか、むず痒くて、嬉しいような気持ちも……してしまいます」

リリウ

「私は、シスターです……見習いではありませんけど。

ですから、神の教えを……宗派（しゅうは）によって解釈は違いますが、人が罪を貯めこみ、それを……懺悔としてお聞きし。

溜め込んだ罪を吐き出して貰うのは尊く（とうとく）聖なる行為である、という私の所属する教会の教えを信じています。

それに……孤児であった私を拾って育てて頂いたという、返しきれないような大きな恩も感じています」

リリウ

「ですから、他のシスター達がそうしているように、成長を認めて頂いた後は……懺悔をお聞きし、人の悩みを解消し、救って差上げられるのは……長年の私の夢でもあるんです。

貴方には心から感謝しております、けれど……貴方のそのお願いを、お聞きする訳にはいかないんです。……ごめんなさい」

へしゆる……ぎゅ

（頭を下げる音）

リリウ

「……ですが、貴方の気持ちを嬉しいと。

いけない事だとは思っているのに……そう感じてしまっているというのも、事実です。

こんな風に誰かから求めて頂ける経験を、した事がないからかもしれないが……。

懺悔を通じて、貴方にこんなにも思っ頂けるようになったという事を、とても……嬉しく、感じてしまっているんだと思います」

へしゆる……ぎゅ

（リリウから手を握り返す音）

リリウ

「ですから、その……一つ、ご提案があります。

こういう言い方は失礼ではありますが、嫉妬を抱いたのは……貴方の罪、と言えます。

同時に貴方に嫉妬を抱かせてしまったのは……私の罪と言えます。

ですので……最後に、もう1度。お互いの罪を晴らすため、懺悔を交わし（かわし）ませんか？」

へずり……しゆる々

（リリウが体を近づける音）

リリウ

「ふうー……はぁー……」。

……貴方とだけの、特別な、懺悔です。

私の、初めての相手である……貴方。

私の初めての証を貰ってくれた……貴方。

そして、溜め込んだ思いを……熱くて白くて、どろどろの罪で、私の中を染め上げてくれた……貴方」

リリウ

「貴方が、他の方に嫉妬をしないように……嫉妬する必要なんてないと、思えるようにするために。

愛し合う、ただの男女。婚姻（こんいん）を結んだ夫婦であるかのように……共に、交じり合う（まじりあう）

懺悔を……致しません、か？

他の誰にもしないと約束する、貴方とだけの、懺悔。……如何、でしょうか？」

へしゆる……々

（どきりと反応する音）

リリウ

「……そうです♪

僭越（せんえつ）ではありますが、貴方に私を愛して頂いていて、私も……貴方を愛している。

お互いに愛し合っていると思いますながら……嫉妬など入り込む隙もないほど、相手を愛おしく（いとおしく）思いながら……交じり合う、というものです。

……これをするのは、神に誓って、貴方にだけです。他の誰に頼まれても、しない約束致します。

……私の、初めてを捧げた、貴方。

私に、懺悔をする機会と……勇気を下さった、貴方。

特別で、愛おしい（いとおしい）……貴方にだけする、懺悔です。

……お受け、頂けます、か？」

へ……びくんっ！々

（興奮で反応する音）

リリウ

「あっ……あは♪

まだ、少し複雑そうな顔をされていらっしやいますけど。

えへ……喜んで頂けたんでしょうか？おちんちん……反応されましたね、ふふ♪

それなら、はい……喜んで、お相手させて頂きます♪」

へしゆる……㊤

（一度体を離す音）

リリウ

「嫉妬すら入り込めない程、罪なんて……忘れてしまうくらい。

お互いの滴る（したたる）液を混じり合わせ、熱を感じあい、心を捧げて……離れがたいと思うくらいに。

旦那様……♪

愛しい夫婦として、まぐわい……愛し合い、ましょう？」

へくちゅ……くぱぁ♪㊤

（リリウが自分から秘所を開き、誘う音）

リリウ

「はぁー……、んっ♪

さぁ……えへへ、旦那様♪

先程精液を出して下さった私のアソコ……おまんこ♪

まだ、もつと……旦那様が欲しいって、くちゅくちゅ、ぐちゅぐちゅ……濡れて、欲しがっちゃってますよ？
ちよつと広げるだけで……こんなに零れてしまって、折角とろとろにして頂いたのに、悲しくて……寂しがっています。

……旦那様？

もう一度……ここに挿れて下さいますか？

挿れて、射精して……今度はもう零れないように、旦那様のモノで、ぎゅって……塞いで、下さいますか？」

へぎゅっ……がばっ！ずぶうっ！㊤

（思わず圧し掛かり挿入する音）

リリウ

「んんうっ、あっ、んんっ♪

あっ、んっ♪ も、お……そんな、急に圧（の）しかからないで下さい、旦那様ぁ♪

そんなに焦ら（あせら）なくても、私はここにいますよ？ ふふ♪」

リリウ

「んっ、あっ……ん、んんう♪

あは……さっきまで、あんなに……愛して貰っていたから、ふふ♪

全然……痛く、ありません♪ んっ、あっんんうっ♪」

リリウ

「んっ、んう……あんっ♪ ふふ♪

嬉しいですよ……旦那様の、私のお腹の中で……ぷっくり膨らみながら、ぐぷ、ぐぷって擦ってくれてる……んんっ♪

えへ、ふふ♪ おちんちんが、旦那様の事がここにいて……いっぱい教えてくれて、とても心が……ポカポカします♪

あつ、う……あんっ♪ えへへ……嬉しい♪」

へぐっ……ちゅうっ♪

(キス音)

リリウ

「んっ!？ ……ちゅう、じゆる、んんう……ちゅっ、ちゅっ、じゆる、くちゅ……んっ、んんう……じゆる♪
んぷ、ぷはあっ! も、もお……また、急にキス♪
突然キスされると、吃驚(びっくり)するじゃないですか。ん、もう♪」

リリウ

「はあ、んっ……ちゅう、じゆる……ん、ふっ……んっ♪
あんっ、ふふ……えへへえ♪ 上も、下も……旦那様が、入ってきてるみたい……です♪
あんっ、んっ、うん、んっ、んんうっ♪
あは♪ こんな、体の中……旦那様で繋がっちゃった、みたい、です……よ? ふふふ♪」

リリウ

「んう♪ ……ん? ……あは♪
いいえ、嫌じゃありませんっ♪

吃驚しただけですから……キスして頂ける事自体は、胸がポカポカして、愛おしくて……んっ♪」

リリウ

「んっ、あむっ、ちゅう……れろ、じゆる、ちゅう……んっ、じゆる、んんうっ♪
くちゅ、れろ、じゆる……じゆる、れろ、ちゅっ、ちゅっ、ちゅう……んんっ♪
ぷはあっ♪ ……えへへえ♪ ほら、全然嫌がってませんよ♪
んふふ……むしろ、旦那様をいっぱい感じられて……上のお口も、下……お口も♪
全部、熱くほぐして貰えてる感じがして……うふふ♪ とってもドキドキして、頭がふわふわして……嬉しくな
ってますっ♪」

へぎし……ばんぱんっ!♪

(ピストンの強まる音)

リリウ

「んふ、んっ、んっ、んう……あ、んうっ♪
や、あ……んんっ♪ 熱いのお……旦那様のお、体の奥でぐりって……触って、きた……んんっ♪
旦那様が出した、残ってる精液を……擦り、つけてくる……みたいにい、んんうっ♪」

リリウ

「あう、んっ、あつ、あつ、あつ、あんっっ♪
ぐり、ぐり……ぐりぐりい♪ 腰、押し付けてえ……中あ、押し広げられてえ……ますうっ♪
また、いっぱいになってちゃってるう……旦那様のでえ、私の……おまんこおっ♪
ぐちゅ、ぐり……いっぱい、いっぱいになって……液が垂れて、喜んで、るの……分かっちゃい、ますっ♪ 分

からせられちゃって、ますっ♪

あはっ、あんっ♪ あっあっ、あっ、あんっ、あっ、んうっ、ああ、んんうっ♪♪」

リリウ

「はあー、あー……んっ♪

旦那様あ、だんなさまあ……わがままあ、我儘言っ、いいです……かあ？

キスう……もう一度キスして、欲しいんです……んんうっ♪

愛しい、アナタを……もっといっぱい、体中で感じながら……んうっ♪

私……頭、真っ白に、になりたい……んっ、で……すうっ♪♪」

リリウ

「んっ、じゆる……んんうっ、あんっ、んんっ、ちゅうっ♪

ぷはあ♪ うれ、し……アナタあ♪ あんっ、ちゅう、じゆる……んんっ、ちゅう、じゆる……んーっ♪

キスう……キス、してます♪ んっ、あんっ、んっ、んっ♪

アナタのお、唇の柔らかさを……齒の形を、絡んでくれるう……舌の感触をお♪

あむっ、じゆる、ちゅっ、ちゅっ、んう、れろ……ちゅう、れろ、じゆる、ちゅうっ、ちゅっ♪

んっ、はあーっ♪ 全部、感じられます……んんうっ♪ しあ、わせ……あ、はあ♪ あんうっ♪♪」

リリウ

「あっ、あっ……白く、白くなっちゃ……キちゃ、キちゃう……キちやいますっ♪

んう……ちゅうっ♪ はあー……アナタあ、アナタあ♪

すきい……好きい♪ 大好き、大好きですよ……愛しい（いとしい）、アナタあ♪

あんっ、あっ、んっ……うん、ああっ♪」

へぎゅっ♪

（顔を近づけ、抱き着くようになる音）

リリウ

「おねが……い、です♪

一緒に……一緒に、イって……イって、くださ……い♪

愛しい、アナタと……私、一緒に、イきた……いっ♪

アナタあ、ねえ？ おねがいです……私と一緒に、イって……イ……ってえ……っっ♪♪」

リリウ

「あう、んっ……や、あ♪

キちゃ、白いの……キ、ちゃ……あっ、んっ……んっ！

んんうう、ああああああああっっっっっ♪♪♪♪」

へびゅくっ、どくっ！！♪

（射精音）

リリウ

「あーっ、あー……あー……んう、あー……んんうっ♪

あ、はあ……あー……はあー……ふわあー……ふー……ああ、んっ、あ……ふう……んんっ♪」

リリウ

「ふうー……んんう♪

お腹あ、ぷくって……アナタの、精液が……たふたふ、溜まって……ぷくって、しちゃってます。

あは♪ んふ……んー……ふうー♪」

リリウ

「えへ……えへへえ……はあー♪

すぐく、いっぱい……アナタを感じちゃいました♪

えへへへ♪ ありがとうございます……アタあ♪

ふー……んんうっ♪

お陰で……アナタを感じながら、一緒に……イけました、から♪」

リリウ

「今、私がどんなに……満たされて、幸せか……ふふ♪

アナタに、分かるといいんですけど……。

もし、伝わってるなら……こんなに嬉しい事、ないくらいです♪ えへ♪」

へしゆる……♪

（体を動かし、横向きに向かい合う音）

リリウ

「……どうでしたか？

嫉妬なんか、入り込めないぐらい……幸せ、感じて頂けました……か？

私ばかり、幸せになってしまったのでなければ、いいのですけれど……。

……同じ思いついて、下さいましたか？

愛しい……愛しい、アナタ？」

へしゆる……ちゅっ♪

（顔を近づけ、再びのキスの音）

リリウ

「ちゅっ……あ♪

……ふふ♪ キスって、いいですね♪

シて貰えると……自分からスると♪

今、幸せだって、とっても伝わりますから♪

ふふ♪ もう1度キス、して下さい♪

んっ……ちゅうっ♪ んっ……えへへ♪」